

支援機器等教材活用実践事例

実践年度・タイトル		平成(30)年度 キーガード付小型キーボードとショートカットキーを活用した脳性マヒ児(アテトーゼ)の書字代替
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	5身体の動き(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること 6コミュニケーション(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
	授業の目標	・PCを使った文字入力を書字代替やコミュニケーションに生かせるように、WindowsやWordなどに使えるショートカットキーを用いる基本的な操作を習得する ・作成した文書やコミュニケーションボード(単語盤)を利用して、自分のことをよく知らない人とも円滑にコミュニケーションをとれる
	学力の3要素	■「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (5)年 (1)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input checked="" type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 不随意運動があるために書字がスムーズに行えず、書字量が多くなると疲れてしまう。また、一生懸命に書いた文字が後になって読めないこともある。また、構音障害があり、発語が不明瞭で、初めての相手には通じないこともある。発語も体力を使うため、指さし等で相手の推測に依存したコミュニケーションをとることが多い。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(■A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 一般的なキーボードではタイプミスが多く、思うように入力が行えない。試行錯誤の結果、小型の無線キーボードに自作のキーガードをつけることによって一定の速さで文字入力が行えるようになった。同様に、一般的なマウスやトラックボールでは思うように操作ができなかった。そこで、速度調整が可能で、電動車いすの操作で慣れているジョイスティック型の「らくらくマウスⅡ」を使うことにした。ただし、これを使っても操作には時間がかかることから、Tabキーや矢印キー、ショートカットキーをWindowsの簡単操作にある固定キー機能と組み合わせ、できる限りキーボードで操作を行うこととした。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	無線小型キーボード+自作キーガード らくらくマウスⅡ(ジョイスティック式) デスクトップPC Microsoft Office2010(主としてWord, PowerPoint)  
授業展開	授業展開・支援の手立て	週に2時間ある自立活動の時間の指導のうち、1時間を利用して指導を行った。1学期は使い易い手の位置やシーティングについて調整し、簡単操作にある固定キー機能やフィルターキー機能の設定方法と文字入力について学習を行った。2学期にはWordの起動やファイルの開き方、ショートカットキーを利用した操作を学習し、Excelの枠に文字を入力する形でコミュニケーションボード(単語盤)の作成を行った。3学期には外国語の授業で利用するための英語のコミュニケーションボードやPowerPointを利用して、居住地校交流で発表する自己紹介スライド等の作成を行った。3学期にはフォルダの選択やWebブラウザの利用などもキーボードで行えるようになった。 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	指導開始当初は、PCの利用については興味があるものの、なかなかうまく操作できず、その価値をあまり感じていなかった。しかし、1学期の終わりには安定した文字入力が可能となり、興味も広がっていった。きれいな形で文書を作成できることも喜んでいて、作成する文章に広がりが見られるようになってきた。助詞の使い方が修正できるようになる等、国語的な成長も見られたが、普段、なかなか言葉にして伝えられなかった冗談などについても書くようになってきた。単語盤の作成も初めは挨拶や返事、よくする依頼や場所などを記載したありふれたものだったが、改良していくうちに使いたい冗談などを入れるようになった。自己紹介スライドは様々な相談をしながら作成し、聞き手を意識した内容を選択できるようになった。